

令和6年度（第14期）

事業報告書

自 令和6年4月1日

至 令和7年3月31日

社会福祉法人 兵庫県視覚障害者福祉協会

事業実施状況

第1 社会福祉事業

1 法人本部事業

県福祉センター会議室等において、次のとおり会議を開催し事業の適切な執行に当たった。

(1) 理事会

第89回理事会	6月 7日
第90回理事会	9月 6日
第91回理事会	12月13日
第92回理事会	2月28日

(2) 評議員会

第26回定時評議員会	6月28日
------------	-------

(3) 監査会

決算監査会	5月17日
中間監査会	11月 8日

(4) 正副会長会 業務の打ち合わせ等、適宜開催

(5) 支部情報交換会 9月20日、3月7日

2 視覚障害者情報提供施設事業

(1) 点字図書館等事業

県から指定管理を受託し、点字図書館を運営した。

① 点字図書館事業

ア 図書利用状況（〔 〕内は前年度）

(ア) 利用者登録数

新規登録者29名、登録抹消者16名で、合計登録者数は2,515人〔2,502〕となった。

(イ) 利用実数

○ 点字図書

延べ人数	実人数	タイトル	冊数
1,057〔1,127〕	74〔98〕	1,077〔1,304〕	2,238〔2,697〕

○ 録音図書

延べ人数	実人数	タイトル	巻数
8,352〔9,844〕	349〔402〕	12,768〔15,553〕	12,749〔16,073〕

(ウ) サピエ図書館利用実数

ボランティアの協力を得て点訳・音訳図書の製作を行った。

○ 点字図書

登録タイトル数 (R6新規)	当館登録タイトルの ダウンロード数	延べ利用数
72 [74]	373 [331]	2,016 [2,290]

○ 録音図書

登録タイトル数 (R6新規)	当館登録タイトルの ダウンロード数	延べ利用数
56 [60]	386 [357]	12,139 [21,031]

イ 図書の状況

書庫を有効活用するため、利用頻度の低いもの及び劣化により利用に適さないもの等の整理・除籍を行った。

(7) 所蔵数

種別	タイトル数	冊数
点字図書	15,416	43,323
録音図書	15,308	60,108
拡大図書	252	492

(4) 図書収集、製作状況

○ 点字図書

種別	タイトル数	冊数
厚生労働省委託	63	95
寄贈図書	7	15
自館製作	56	174
購入	1	1
点字雑誌	11	164
合計	138	449

○ 録音図書

種別	タイトル数	冊数
厚生労働省委託	56	56
寄贈図書	11	11
自館製作	18	18
録音雑誌	8	109
合計	93	194

○ プライベート

利用者の希望に応じてプライベート製作を行った。

種別	件数
----	----

点字	1
テキスト化	3
点字打出し	57

ウ 指導・相談の状況

(ア) 読書相談 932件

点字・録音図書のリクエストの受付や蔵書検索を行った。

(イ) その他の相談 144件

ボランティアや一般の方からの問合せに対応した。

(ウ) 生活等相談 1,536件

今年度も、神戸アイセンター病院及び役所・関係機関等からの紹介を受けて相談に至るケースが多かった。一方、インターネットを通じて当協会にたどり着いたケースも多く、自分の将来の見え方は見通せないが、いま視力が有る間に情報を得たい、また、将来に備えたいというお気持ちの強さを感じた。さらに、保健所等から、巡回相談等はないのか、ケースを適切な機関に繋ぎたいが何処に繋いで良いか分からない、さらに、神戸まで相談に行けない等の声もあり、コロナ禍以降中断しているが、今後は、積極的に県下各地を訪問して情報提供を行うとともに協会の存在の周知を図る必要が有る。

なお、相談内容は、日常生活のみならず復職を含む就労関係等にも及び、特に今年度は『訓練を受けたい』旨の相談者自身からの申し出も多く、これは視覚リハビリテーションの概念が少しずつ深まっている証であると感じている。

エ 施設利用状況

対面朗読室・聴読室	60人
閲覧	480人
ボランティア研修室等	425人
録音室	461人
見学・その他	2,242人
計	3,668人

オ ボランティアの状況

(ア) ボランティア登録数

点訳ボランティア	64名
音訳ボランティア	32名
デージー図書製作ボランティア	8名
対面朗読ボランティア	6名

(イ) ボランティアの活動概要

◇点訳

全体会を年2回、グループ毎に月一回勉強会を開催。

◇音訳 (2グループ)

各グループ毎に勉強会を月一回(第1木曜日)開催。

(ウ) 表彰関係

川口 夏栄 [点訳] (社福) 日本盲人社会福祉施設協議会 奉仕者表彰

六川 紀子 [音訳] (社福) 日本盲人社会福祉施設協議会 奉仕者表彰

カ 点字ニュース即時提供システム事業

日本視覚障害者団体連合の実施する標記事業の窓口となり、速やかな情報提供に貢献している。

登録者数		メール版送信数(延)
個人	公共機関等	
21	1	5,324件

キ その他事業

(ア) 利用者・ボランティア交流会

3月7日 県福祉センター 参加63名 アンティークオルゴールの鑑賞会を実施。

(イ) 親子チャレンジデー

7月20日 県福祉センター 参加23名

(ウ) 刊行物の発行

点字図書館だよりを年6回(偶数月)発行。

(点字版798部、音声版987部、墨字版746部、計2,531部)

(エ) オーディオブックの充実強化

国立国会図書館に69タイトルのデータを提供。

また、ebookを977タイトル購入し累計2,914タイトルのオーディオブックが利用可能となった。

(オ) 生活点字の普及啓発

身の回りの簡単な点字の読み聞き能力向上を目的として指導を実施。

また、小林聖心女子高校で学生に対し点字体験学習を実施。

・ 県福祉センター	10回	延べ	10人
・ 西脇市コミセン	11回	延べ	11人
・ 小林聖心女子高校	7回	延べ	137人

(カ) ICT指導者養成研修事業

昨年度に引き続き、晴眼者サポーターの養成のため、『ICTサポートボランティア養

成研修』を実施した。なお、内容をより実践に役立つよう工夫するとともに、研修期間を2日連続とすることで、受講者の集中力を高める等の改善を図ったところ、受講者から好評を得た。

会場は昨年同様、神戸会場と豊岡会場の2箇所。

- ・ 開催日時

豊岡 3月12日(水)・13日(木)

神戸 3月17日(月)・18日(火)

時間 1日目：13時から16時30分

2日目：10時30分から16時30分

- ・ 会場

神戸 兵庫県福祉センター201会議室

豊岡 豊岡市民プラザ

- ・ 受講人数

神戸 7名

豊岡 6名

(キ) 出前講座等の実施

社会福祉協議会や役所・学校等の要請により、職員が講師となり出前講座等を実施。

◇ 兵庫県身体障害者福祉協会 みんなの声掛け運動 神戸市立星和台中学校

日時：6月21日(金) 5限目

対象：2年生全員

講師：小林

◇ 連合兵庫 研修会

日時：6月22日(土) 13:00~15:00

対象：連合兵庫の青年部会希望者30名

講師：小林、玉利

◇ 神戸市立本山第三小学校 ゲストティーチャー

日時：7月1日(月) 8:40 ~ 10:20

対象：4年生全員

講師：小林

◇ 西宮市立視覚障害者図書館 スマホ指導員養成研修

日時：7月9日・16日・23日・30日(火) 10:00 ~ 12:00

対象：図書館職員2名

講師：小林

◇ 芦屋市意思疎通支援・障がい理解研修(全2回)

日時：8月21日(水)・7月29日(水) 13:30 ~ 16:00

対象：芦屋市職員・権利擁護受講の一般市民 17名

講師：小林、玉利

- ◇ ユニバーサルツーリズム （兵身協 みんなの声掛け運動） 丹波地区
日 時 : 8月22日(木) 11:10 ~ 12:10
対 象 : 地域観光業等に従事の希望者 8名
講 師 : 小林
- ◇ 尼崎市社会福祉協議会 点訳ボランティア講座 プレ講座
日 時 : 9月19日(木) 13:30 ~ 15:30
対 象 : 一般市民
講 師 : 小林
- ◇ 兵庫県立明石城西高校 選択授業
日 時 : 10月29日(火) 4限
対 象 : 高校3年生 11名
講 師 : 小林
- ◇ 兵庫県立日高高等学校 看護科 「特色ある教育課程推進事業」
日 時 : 11月14日(木) 13:35 ~15:35
対 象 : 看護科1年生
講 師 : 小林
- ◇ ユニバーサルツーリズム （兵身協 みんなの声掛け運動） 神戸
日 時 : 11月28日(木) 10:00 ~ 11:00
対 象 : 地域観光業等に従事の希望者 15名
講 師 : 小林
- ◇ 赤穂市視覚障害者協会主催 「視覚障害者の理解と手引き」研修
日 時 : 11月30日(土)・12月3日(火) 13:00 ~ 16:00
対 象 : 当事者家族・社協職員・防災士など中心に30名
講 師 : 小林、玉利
- ◇ 兵庫県身体障害者協会主催 みんなの声掛け運動推進委員向け研修
日 時 : 12月4日(水) 13:30 ~ 15:30
対 象 : 声掛け運動推進委員 15名
講 師 : 小林
- ◇ ユニバーサルツーリズム （兵身協 みんなの声掛け運動） 淡路
日 時 : 12月10日(火) 10:00 ~ 11:00
対 象 : 地域観光業等に従事の希望者 15名
講 師 : 小林
- ◇ 兵庫県立日高高等学校 福祉科 「特色ある教育課程推進事業」
日 時 : 12月16日(月) 13:30 ~ 16:30
対 象 : 福祉科1年生
講 師 : 小林、長浜
- ◇ ユニバーサルツーリズム （兵身協 みんなの声掛け運動） 但馬

日 時 : 1月31日(木) 13:30 ~ 14:30

対 象 : 地域観光業等に従事の希望者 15名

講 師 : 小林

② 身体障害者福祉事業

県からの委託事業を中心に下記のとおり実施した。

ア 視覚障害者情報提供促進事業

・ ICT相談

フロッグワークス代表岸本将志氏を講師に、パソコン等IT機器類の操作指導やトラブル対処法に対応。コロナ対策として原則電話対応のみとしていた相談を来所対応も再開し、火曜日と水曜日の午後を相談日とした。なお、新規利用者は少数で、リピーターの割合が高く、継続相談の数名を除いて単発相談が多くを占めている。延386名。

イ 視覚障害者社会生活訓練事業

女性家庭生活訓練・青年社会生活教室の事業を男女を分けて行う事業がなくなっていることから統合して実施。以前から地区でのスマートフォン教室の開催要望があったことから、今年度も出前教室という形で教室型訓練を実施。

・ スマートフォン教室(三田地区) 各回4~6名参加

(開催日時)

4月1日、5月6日、6月3日、8月5日、9月2日、11月4日、1月6日、3月3日

何れも月曜日 13:00~16:00

講師 : 金澤

ウ 中途視覚障害者各種指導事業

◎ 触読等指導(開催場所 神戸市 県福祉センター)

中途視覚障害者2名に対し、4月~2月 全10回の講座を、点字技能師・点字指導員の職員が、L点字を使用した触読の指導をはじめ、各種視覚障害者用器具の紹介、制度の説明などを行った。

◎ 生活・歩行訓練

日本ライトハウス養成部歩行訓練士5名を講師に、4月から3月、三田市、尼崎市、西宮市、姫路市、明石市、加西市、稲美町、神戸市垂水区の希望者14名に延べ77回実施。

視覚障害者歩行指導員の武内氏を講師に、4月から6月、豊岡市、養父市の希望者2名に延べ16回実施。

当協会歩行訓練士玉利職員を講師に、4月から3月、丹波篠山市、三田市、川西市、尼崎市、小野市、三木市、加東市、姫路市、福崎町、明石市、垂水区の申込者22名に94回の訪問訓練を実施した他、センター来所者に白杖指導を行った。歩行から始めた訓練が、ICT操作や点字の訓練への移行もさらに増えている。白杖購入希望者については、引き続きできる限り来所をお願いし、最初の使い方を指導するよう心がけた。

エ 点訳奉仕員養成事業

◎ 初級講座 開催場所 県福祉センター

4月～3月の間、全11回 各回10名を対象に職員が指導した。

◎ スキルアップ講座 開催場所 県福祉センター

5月と11月 全2回 各30名を対象に職員が指導した。

オ 朗読奉仕員養成事業 県福祉センター

◎ 初級講座

11月～3月の間、全13回 6名修了。

◎ 朗読奉仕員研修会

4月～3月 計23回 延べ226名参加。

カ 視覚障害者社会参加支援事業

○ たじま県視協まつり 豊岡市民プラザ 9月27日

○ やさか眼科院内サロン 用具展示と情報交換 7月13日・11月23日・3月29日

○ 用具展 (県福祉センター) 2月8日

キ 同行援護養成研修

同行援護の制度と従業者の業務を理解し、基本的な移動の支援と技術を習得することを目的とした一般課程研修を実施した。

講師は、同行援護支援センターサービス提供責任者の長浜が担当。

(豊岡会場)

開催場所：豊岡市民プラザ 市民活動室D

〒668-0031 豊岡市大手町4-5 アイティ7F

開催日程：令和6年10月5日(土)・6日(日)・12日(土)・13日(日)

9時～17時 計4日間

定員12名・申込者7名・受講決定者7名・修了者7名

(神戸会場)

開催場所：兵庫県福祉センター2階 202会議室

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

開催日程：令和6年12月10日(火)・11日(水)・17日(火)・18日(水)

9時～17時 計4日間

定員16名(定員12名のところ16名に変更)・申込者17名・

受講決定者16名(内1名は事前キャンセル)・修了者16名

(2) 点字制作施設事業

令和6年度は、10月に衆議院議員選挙、11月に予期せぬ県知事選挙があり点字氏名掲示や点字公報等を作成。また3年に一度の「神戸市の介護保険のあらまし(点字版)」を作成。その他、例年どおり各市の広報や議会報などの点字・音声作成等を行った。

3 同行援護支援事業

令和7年3月末時点で、利用者は228名登録があり、内訳は県下37市町213名、県外1都1道2府7県15名、登録同行援護従事者については、県下26市町108名、県外1府3名であった。

実際に利用があったのは、県下32市町県外1都2府4県117名であった。

4 認定こども園事業

令和4年4月の開園後3年を経過した。開園当初より明石市から様々な指摘や助言を得て事故対応マニュアル作成、アレルギー対応マニュアル見直し等、順次改善を実施してきた。

特に、給食提供に係る事故等が多く発生したことから、令和5年4月から給食業務を業者委託し安全安心な給食提供を心がけた。しかし、異物混入が引き続き発生したこと等から、令和7年4月より地産地消や食育事業の展開が期待される業者に委託先を変更する。

また、新型コロナウイルス感染症の行動制限も緩和され、地域行事への参加・近隣の介護施設との交流や保護者等の参加を得た夏祭り・運動会等の開催に加え、県立人と自然の博物館出前講座や読み聞かせボランティアなどの受け入れを新たに行うことが出来た。

今後も引き続き全職員が協力し、児童が安心して健やかに成長できる保育環境が提供できるよう全力で取り組むとともに、地域の子育て支援拠点としての取組みを進めていきます。

(1) 開園 令和4年4月1日

(2) 区分 幼保連携型認定こども園

(3) 住所 明石市魚住町西岡天王後1643番等8筆 2,320.97㎡（登記簿）

(4) 建物 鉄骨造 2階建 延床面積 1,394.05㎡（登記簿） 園庭955.55㎡

(5) 事業実施の目的

本協会として視覚障害者を始めとする障害者の福祉向上を目指すにあたり、乳幼児及び子育て中の親に対するサポートの重要性を痛感し、保育所・こども園の設置等を進めている明石市の施策に呼応して、認定こども園事業を実施することとした。

(6) 運営の特色

ア 0～2歳児を多数受け入れ、乳児期から就学前まで継続してこどもの成長を見守るとともに保護者へのきめこまかな支援を行う。

イ 看護師複数を配置し、全園児の健康管理に努めるとともに、ケガや急な体調の変化に適切に対応するほか病児保育室など安静にできる環境を整え、児童の迎えまで保護者が安心できる保育を提供する。

ウ 一時預り保育、子育て相談、園庭開放などを実施し、保護者の就労要件を問わず柔軟にこども園を利用してもらい、発達障害や児童虐待の発見に努めるとともに、地域の親子を支える拠点となる。

エ 防災型地域交流スペースを活用し、近隣の高齢者、障害者、園児との交流を図るとともに、災害時には子育て中の親子や集団になじみにくい児童のいる家族の避難所としての役割りを担っていく。

オ 令和6年度から卒園児を中心とした英会話教室を実施し、地域の就学児にも利用を広げている。

(7) 認可定員 3歳未満児 42人（0歳10人、1歳16人、2歳16人）
3歳以上児 63人（3歳21人、4歳21人、5歳21人） 計105人

(8) 入園児童数 3歳未満児 48人（0歳13人、1歳15人、2歳20人）【R6.4.1現在】
3歳以上児 77人（3歳25人、4歳26人、5歳26人） 計125人
(定員の119.0%)

3歳未満児 40人（0歳6人、1歳13人、2歳21人）【R7.4.1現在】
3歳以上児 74人（3歳25人、4歳25人、5歳24人） 計114人
(定員の108.6%)

※ 0歳児については、園児が新たな環境に慣れるにつれて順次受け入れを増やしていくこととしている。

(9) 特別保育事業（令和6年度）

- ① 一時預かり保育（一般型利用児童49人、延べ711回）
- ② 医療的ケア児の保育（1名）
- ③ 障害児等に係る保育（障害児7名、要配慮児7名）

(10) 職員配置状況 必要保育士数 20人

職 種	令和6年4月1日現在			令和7年4月1日現在		
	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計
園 長	1		1	1		1
副園長	1		1	1		1
主 幹	1		1	1		1
副主幹	3		3	3		3
保育教諭	23	7	30	26	4	30
看護師	3	1	4	3		3
事務員等	2	2	4	3	3	6
心理士		1	1		1	1
合 計	34	11	45	38	8	46

※常勤保育教諭に短時間勤務正規含む ※常勤保育教諭1名、常勤事務員1名育休中

第2 公益事業

1 日常生活用具等斡旋販売事業

今年度は以下のような傾向がみられた。

- ・ 数年継続した用具全般の価格高騰は落ち着いてきたが、主力用具である PTN3 が大幅に値上がりして基準額を上回ったことに加え、今後、同シリーズ PTR3 の価格変更もあり得るとの予告がなされ、今後の懸念事項となっている。
- ・ 価格高騰に伴う基準額見直しにつき、白杖は大きな見直しが見込まれた一方、当協会から各市町に要望書を提出した拡大読書器の基準額の見直しを実施した市町は少数に留まった。
- ・ ①支給基準に世帯要件を付している、②白杖と折りたたみ杖など同一種用具の2つ支給可等につき理解の乏しい自治体が多いため、自治体への制度理解促進のための働きかけが必要なケースが多く発生した。
- ・ 音声ガイド付き家電類が軒並み生産終了となり、不便との声が多く聞かれた。
以上のことから、窓口申請時に購入者が不利益を被ることのないよう、自治体等への更なる働きかけと共に、利用しやすい用具等の情報収集と提供に引き続き努めたいと考えている。

2 文化教養交流等事業

会員・ボランティアの参加を得て次の事業を実施した。

(1) 文化教養事業

- ・ 囲碁・将棋・オセロ大会 7月26日 県福祉センター 参加総数95名
- ・ 点字競技会 8月2日 県福祉センター 参加総数21名
- ・ 芸能大会 10月18日 垂水レバンテホール 参加総数169名
- ・ バリアフリー上映会in尼崎「お終活」 9月13日
アルカニックホールミニ（尼崎市） 参加総数210名
- ・ 視覚障害者のつどい事業「小西達也コンサート」 11月1日
明石子午線ホール 参加総数153名
- ・ 兵庫県視覚障害者福祉まつり 12月6日 県福祉センター 参加総数296名

(2) 交流等事業

ア 日本視覚障害者団体連合

- ・ 第77回全国視覚障害者福祉大会熊本大会 6月2日、3日 参加4名
- ・ 全国団体長会議 6月2日（熊本県）、10月28日・2月10日（ZOOM会議）
参加各1名
- ・ 第1回近畿ブロック委員会 6月14日 大阪府 参加3名
- ・ 第2回近畿ブロック委員会 11月15日 兵庫県 参加4名
- ・ 近畿ブロック団体長会議 2月19日 堺市 参加1名

イ 情報発信

- ・ 県視協情報発行 一年4回一般・特別会員に配布（デイジー版・CD版）

- ・ ホームページ配信 — 毎月1日更新
- ・ メール配信 — 希望する会員・特別会員に、行事の案内等を配信

ウ 各地区活動助成事業

13地区において独自の支部活動が行われ、視覚障害者延548名、付き添い・ボランティア等延645名、合計延1,193名の参加があった。

エ 部活動

(ア) 青年部

- ・ 第1回 近畿ブロック協議会青年部委員会 6月23日 堺市 参加2名
- ・ 第2回近畿ブロック協議会青年部委員会・青年交流研修会
12月14～15日 滋賀県 参加各2名
- ・ 全国視覚青年大会（大阪市大会） 9月15日、16日 参加3名
- ・ 研修会 9月27日 神戸どうぶつ王国 参加15名

(イ) 女性部

- ・ 定期総会 4月26日 県福祉センター 参加16名
- ・ 支部長会 6月27日 県福祉センター 参加12名
9月12日 県福祉センター 参加11名
12月5日 県福祉センター 参加12名
- ・ 研修会 11月8日 県福祉センター 参加42名
- ・ 役員会、監査会 3月19日 県福祉センター 参加6名
- ・ 全国視覚障害女性研修大会（香川大会） 9月4～5日 参加5名
- ・ 近畿ブロック女性連絡会議（奈良県） 11月29日 参加2名

(ウ) 音楽部

- ・ 第47回箏曲定期演奏会 1月25日 垂水レバンテホール 129名参加

(エ) スポーツ部

【役員会等】

- ・ 役員会 4月25日、12月19日
- ・ 近畿ブロックスポーツ部委員会 6月14日、11月15日

【サウンドテーブルテニス部】

- ・ 第63回兵庫県視覚障害者STT大会兼第18回身体障害者のじぎく大会
5月19日 県立障害者スポーツ交流館
参加選手45名
- ・ 第12回のじぎく杯STT大会 9月16日 県立障害者スポーツ交流館
参加選手40名
- ・ 第61回近畿視覚障害者卓球大会 11月12日 京都市障害者スポーツセンター
参加選手8名
- ・ 特別全国障害者スポーツ大会佐賀大会サウンドテーブルテニス部門 佐賀県
参加選手1名

【フロアバレーボール部】

- ・ 練習会 年 12 回

【グランドソフトボール部】

- ・ 第 61 回近畿視覚障害者グランドソフトボール大会兼第 23 回全国障害者スポーツ大会
グランドソフトボール競技近畿地区予選会 5 月 26 日 和歌山県 打田若もの広場
参加選手等15名
- ・ 第25回兵庫県グランドソフトボール大会 11月10日 17号池魚住みんな公園
参加選手40名

第3 社会福祉充実計画

認定こども園の開設等、社会福祉充実計画（平成30年度～令和4年度）に基づいて事業を実施してきた結果、令和4年3月31日現在の社会福祉充実残額がマイナスとなったことから、社会福祉充実計画を終了した。